

長引くホルムズ海峡封鎖、 解除後のドル円はどう動く？

月 初に1ドル158円台後半でスタートしたドル円は、足元も158円台後半と横ばい圏で推移している。米・イランの戦闘開始後は、事態が緊迫化して原油価格が上昇する場面では、有事のドル買いや本邦貿易赤字の拡大観測が円安圧力となる一方、緊迫感が緩んで原油価格が下落に転じる場面ではその反動が生じてきた。7日に両国による一時停戦が合意されたものの、戦闘終結への道筋は不透明で、ホルムズ海峡の事実上の封鎖も続いたことで円安圧力が燻った。一方、戦闘終結への期待や円買い介入への警戒感が円の下値を支えたため、狭いレンジでの推移となった。

今後もイラン情勢の行方がドル円を左右する。不確実性は高めだが、メインシナリオとしては、今後数週間での事態の鎮静化を想定している。中間選挙を控えたトランプ大統領には、長引く原油高に対する強い焦りがうかがえる。イランの核開発能力を一定程度制約する内容で合意をまとめ、「核の脅威を退けた」と成果を主張することで、事態の沈静化を図る可能性が高い。その際、イランも現体制の存続を優先し、制裁面などでの米国側の一定の譲歩を条件に矛を収める展開を想定している。当該シナリオの下では、戦闘終結に伴う原油高の是正を背景に、やや円高方向に振れやすい。さらに、戦闘終結後には、原油高の二次的波及を防止するため、日銀が利上げに踏み切ることも円高要因となるだろう。

もっとも、この場合でも、原油供給の正常化には時間を要するうえ、イランによる海峡再封鎖リスクへの警戒も残るため、原油価格の急落は見込みにくい。既往の原油高による貿易赤字拡大もこれからだ。従って、3か月後の水準は157円前後と予想している。

月初に2.3%付近でスタートした長期金利は、足元で2.3%台後半とやや上昇している。原油価格の高止まりを受けて、インフレ懸念が強まったことが主因だ。一方、戦闘終結への期待や日銀による4月利上げ観測の後退が上昇をやや抑制した。

今後のメインシナリオとしては、数週の間原油高が是正に向かい、インフレ懸念は一服するとみている。ただし、既述の通り、原油価格の急落は見込みづらいうえ、日銀による利上げ実施もあり、金利低下余地は乏しい。3か月後の水準も2.3%台と見ている。

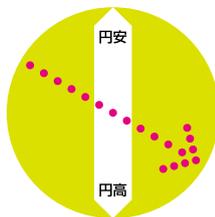


主席エコノミスト **上野 剛志**
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp
1998年 日本生命保険相互会社入社
2001年 同財務審査部配属
2007年 日本経済研究センターへ派遣
2008年 米シンクタンク The Conference Boardへ派遣
2009年 ニッセイ基礎研究所

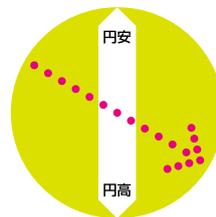


Market Karte

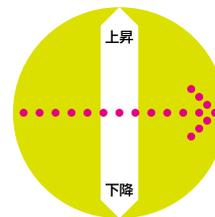
May 2026



ドル円・3か月後の見通し

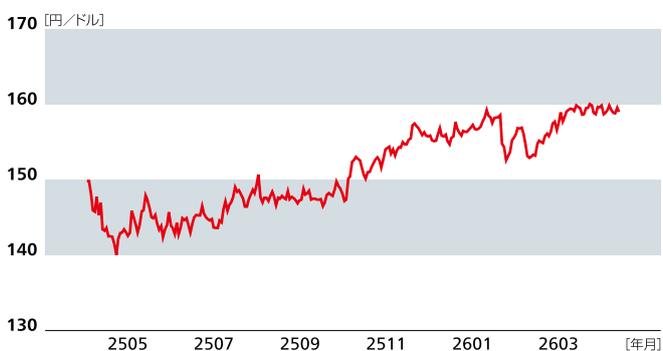


ユーロ円・3か月後の見通し

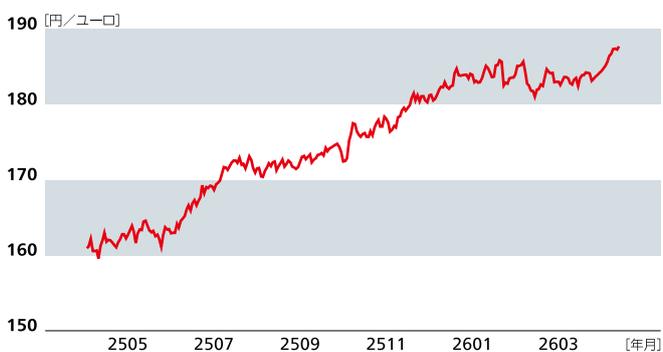


長期金利・3か月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

